

# 臥床患者の拘縮・褥瘡予防における ポジショニングについての意識調査報告

## 目的

現在、個々の経験によるポジショニングを行うことが多く、拘縮の進行や骨折、褥瘡発生の予防となっているのか疑問である。そこでスタッフが通常行うポジショニングと、修正したポジショニングを比較し有効なポジショニングについて検討した。その後、アンケートによる意識変化を調査したため報告する。

## 研究方法

期間：2025年6月～2026年1月

対象：医療療養病棟看護師16名・介護士8名 計24名

通常の仰臥位・右側臥位のポジショニングにおける体圧を測定

アセスメントによる修正したポジショニングにおける体圧を測定

体圧測定器はプレッシャースキャニングエイドゼロ(株)ケーブルを使用

アセスメント項目は以下6項目

- ① 頭部側から足側へと順番に動かす
- ② 体軸を整える
- ③ 点ではなく面で身体を支える
- ④ 背抜きを行う
- ⑤ 拘縮には重力を利用する
- ⑥ 自分で動こうとする動作を妨げない

体圧分散マットレスは「プラウド」「フィット」エアマットは「ここちあ利楽」を使用。

体験後に調査実施。設問3項目回答5選択式とした。

## 結果・考察

仰臥位では仙骨部、右側臥位では腸骨部の体圧を測定した結果、すべてのマットレスにおいて、褥瘡発生基準の40mmHgを超えたのは24名のうち10名であった。修正したポジショニングでは、すべてのスタッフの体圧が褥瘡発生基準値より低下し、修正したポジショニングは褥瘡予防につながると考えられた。

検査結果では、「今回の体験が有意義であったか」「今後患者さんへ活かすことができるか」に対し、全員が「思う」「やや思う」と回答した。「従来行っていた右側臥位のポジショニングでは不快で動けない」という意見があり、姿勢反射を阻害し拘縮の原因となっていることが考えられた。この体験を活かしていきたいとの意見が多く聞かれた。

## 結論

調査結果から臥床患者の拘縮、褥瘡予防におけるポジショニングを体験し見直しができることが意識向上につながったと考えられた。